

日食情報の再発刊に際して

山口 正博

1963年7月21日(日)の早朝に北海道東部の網走市と知床半島において見えた皆既日食を最後に今世紀中は日本の国内を通過する皆既日食は起らない。それで日本の天文学愛好家(アマチュア)による皆既日食の観測は1968年9月22日(日)のソビエト連邦中央部における皆既日食以来、外国における観測が行なわれるようになった。その後は1970年3月7日(土)のメキシコとアメリカ、1972年7月10日(月)のアラスカ、1973年6月30日(土)のアフリカ、1974年6月20日(木)のオーストラリア南西端、1976年10月23日(土)のオーストラリア南東部などの日食に、多数の観測者が参加した。

外国で皆既日食を観測する場合に、最も重要な問題は、観測地の選定である。これには次の3つの条件を考慮に入れる必要がある。

1. 皆既日食帯の通過する状況
2. 観測地の天候についての状況
3. 観測地への交通についての状況

これら3つの状況を事前に調査して観測地を選定し、それを基にして観測の計画を立てるわけであり、外国における観測の場合には、これらの調査に時間がかかるのである。

1973年のアフリカ日食の経験から、1976年のオーストラリア日食に向けて「日食情報」というものを7回にわたって発行し、この日食の観測に行く人達に一つの役目を果たした。この経験の上に立って、今回来る1979年2月26日(月)のカナダ日食をはじめ、1980年2月16日(土)のアフリカおよびインドの日食などについて「日食情報」を継続して発行することにした。これらの日食の観測の計画をしている諸氏に御利用いただければ幸である。